土木工事積算基準（平成28年5月）の一部修正　修正比較表

○○○○：追加・修正
~~○○○○~~：削除

現　　行（Ⅳ－1－36）

ク．標準数量表（サドル付分水栓・矢板あり）　（1箇所当り）

工種	形質寸法	単位	数量			
			幹線道路	一般道路	歩道	砂利道
舗装切断工	アスファルト	m	2.10			—
舗装版直接掘削積込工		m^2	0.42			—
管路掘削工		m^3	0.53	0.41	0.43	0.45
管路埋戻工	改良土	m^3	0.32	0.33	0.41	0.45
残土処分工		m^3	0.33	0.34	0.40	0.45
舗装残滓等処分工	アスファルト	m^3	0.04	0.03	0.01	—
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m^3	0.21	0.08	0.04	—
矢板工（設置・撤去）	掘削幅　B≦0.9	m	2.10			
一次本復旧工		m^2	0.42			—
分水栓取付工	鋳鉄管用／ビニル管用	箇所	1			
コア取付工	鋳鉄管用	箇所	1			
分水栓取付材料	鋳鉄管用／ビニル管用	式	1			
ポリエチレンスリーブ取付工	防食テープ含む	m	0.60			
ポリエチレンスリーブ	材料費	m	0.60			

ケ．標準材料表（分水栓取付材料）　（1箇所当り）

名称	単位	数量					
		分水栓	鋳鉄管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓			ﾋﾞﾆﾙ管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	
		φ25	φ25	φ40	φ50	φ25	φ40
分水栓	個	1	—	—	—	—	—
鋳鉄管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	個	—	1	1	1	—	—
ﾋﾞﾆﾙ管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	個	—	—	—	—	1	1
密着銅コア	個	—	1	1	1	—	—
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管用金属継手(分・止水栓用ｿｹｯﾄ)	個	1	1	1	1	1	1
残留塩素検査（DPD試薬）	個	1					
給水管表示ピン	個	1					

修　　正

ク．標準数量表（サドル付分水栓・矢板あり）　（1箇所当り）

工種	形質寸法	単位	数量			
			幹線道路	一般道路	歩道	砂利道
舗装切断工	アスファルト	m	2.10			—
舗装版直接掘削積込工		m^2	0.42			—
管路掘削工		m^3	0.61	0.62	0.64	0.66
管路埋戻工	改良土	m^3	0.40	0.54	0.62	0.66
残土処分工		m^3	0.41	0.55	0.61	0.66
舗装残滓等処分工	アスファルト	m^3	0.04	0.03	0.01	—
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m^3	0.21	0.08	0.04	—
矢板工（設置・撤去）	掘削幅　B≦0.9	m	2.10			
一次本復旧工		m^2	0.42			—
分水栓取付工	鋳鉄管用／ビニル管用	箇所	1			
コア取付工	鋳鉄管用	箇所	1			
分水栓取付材料	鋳鉄管用／ビニル管用	式	1			
ポリエチレンスリーブ取付工	防食テープ含む	m	0.60			
ポリエチレンスリーブ	材料費	m	0.60			

ケ．標準材料表（分水栓取付材料）　（1箇所当り）

名称	単位	数量					
		分水栓	鋳鉄管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓			ﾋﾞﾆﾙ管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	
		φ25	φ25	φ40	φ50	φ25	φ40
分水栓	個	1	—	—	—	—	—
鋳鉄管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	個	—	1	1	1	—	—
ﾋﾞﾆﾙ管用ｻﾄﾞﾙ付分水栓	個	—	—	—	—	1	1
密着銅コア	個	—	1	1	1	—	—
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管用金属継手(分・止水栓用ｿｹｯﾄ)	個	1	1	1	1	1	1
残留塩素検査（DPD試薬）	個	1					
給水管表示ピン	個	1					

備考（内容）

数量の修正

〇〇〇〇：追加・修正
~~〇〇〇〇~~：削除

土木工事積算基準（平成28年5月）の一部修正　修正比較表

現　　行（Ⅳ－1－47）

ケ．標準数量表　（1箇所当り）

工種名称	単位	数量	
		φ40・φ50	φ75以上
舗装切断工	m	(掘削幅＋掘削延長)×2	
舗装版直接掘削積込工	m^2	掘削幅×掘削延長	
管路掘削工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－既設舗装版厚)	
管路埋戻工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－仮復旧厚)	
残土処分工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－既設舗装厚)	
舗装残滓等処分工（As)	m^3	掘削幅×掘削延長×既設舗装版厚	
舗装残滓等処分工（路盤廃材)	m^3	掘削幅×掘削延長×既設路盤厚	
市道仮復旧工	m^2	掘削幅×掘削延長	
矢板工（設置・撤去）※2 ※4	m	(掘削幅＋掘削延長)×2	
仮管分岐材料	式	1	
不断水連絡工（材工共)	箇所	1	
弁室類築造工（設置・撤去)	箇所	—	1
仮管撤去工（鋳鉄管)	m	—	※3

※1　掘削深は土被に管外径を加算したものとする。
※2　矢板工は掘削深が1.50mを超える場合に計上する。
※3　φ75：0.36、φ100：0.37、φ150：0.40とする。
※4　矢板工を計上する場合の支保工は（掘削幅　B≦1.3）とする。
（注）各工種の計算結果は、小数第2位までとし第3位四捨五入する。

コ．標準材料表（φ40分岐・φ50分岐）　（1箇所当り）

資材名称	形式寸法	単位	数量	
			φ40	φ50
ビニル管用ユニオンナット		個	2	2
Ｓベンド	HIVP	個	1	1
ソフトシール止水栓		個	1	1
止水栓用伸縮継手		個	2	2
ソケット	HIVP	個	2	2
止水栓ボックス	150	個	1	1
止水栓ボックス（継足用)	150	個	1	1

修　　正

ケ．標準数量表　（1箇所当り）

工種名称	単位	数量	
		φ40・φ50	φ75以上
舗装切断工	m	(掘削幅＋掘削延長)×2	
舗装版直接掘削積込工	m^2	掘削幅×掘削延長	
管路掘削工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－既設舗装版厚)	
管路埋戻工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－仮復旧厚)	
残土処分工	m^3	掘削幅×掘削延長×(掘削深※1－既設舗装厚)	
舗装残滓等処分工（As)	m^3	掘削幅×掘削延長×既設舗装版厚	
舗装残滓等処分工（路盤廃材)	m^3	掘削幅×掘削延長×既設路盤厚	
市道仮復旧工	m^2	掘削幅×掘削延長	
矢板工（設置・撤去）※2 ※4	m	(掘削幅＋掘削延長)×2	
仮管分岐材料	式	1	
不断水連絡工（材工共)	箇所	1	
弁室類築造工（設置・撤去)	箇所	—	1
仮管撤去工（鋳鉄管)	m	—	※3

※1　掘削深は土被に管外径を加算したものとする。
※2　矢板工は掘削深が1.50mを超える場合に計上する。
※3　φ75：0.36、φ100：0.37、φ150：0.40とする。
※4　矢板工を計上する場合の支保工は（掘削幅　B≦1.3）とする。
（注）各工種の計算結果は、小数第2位までとし第3位四捨五入する。

コ．標準材料表（φ40分岐・φ50分岐）　（1箇所当り）

資材名称	形式寸法	単位	数量	
			φ40	φ50
ビニル管用ユニオンナット		個	1	1
Ｓベンド	HIVP	個	1	1
ソフトシール止水栓		個	1	1
止水栓用伸縮継手	40	個	2	－
ビニル管用伸縮継手	50	個	－	2
ソケット	HIVP	個	2	2
止水栓ボックス	150	個	1	1
止水栓ボックス（継足用)	150	個	1	1

備考（内容）

資材名称・数量の変更